

百間川一の荒手(巻石)遺構調査の現地公開を行いました

岡山市中区今在家の旭川・百間川分流部に位置する、一の荒手の発掘調査を岡山県古代吉備文化財センターと協力して実施していましたが、その発掘の状況について、5月30日(金)に現地で一般公開を行いました。

一般公開には地域の住民の方など、約140名が参加し、高い関心が寄せられました。岡山県古代吉備文化財センターの村木所長が調査の概要を説明した後、今後の改修方針と予定について岡山河川事務所の児子調査設計課長が説明を行いました。

一の荒手遺構の巻石部についての発掘内容は文化財センターの小嶋氏により説明が行われました。巻石部の大きさは底の長さ約22m、底幅約11m、高さ約5mの大きさで、巻石部の石の積み方等から津田永忠が築造したとされる江戸時代初期の貞享3年(1686)年代よりも新しく、幕末に近い文化11年(1814)以降の築造ではないか、また、巻石の百間川側には新たに石積みがあることも確認され、この石積みは、巻石を築造した後に作られたということで、現時点では何の目的で作られたか不明との説明でした。

見学に参加した人々は、興味深そうに説明を聞き、いにしへの時代に築造された石積みをカメラに納めていました。



上流側の巻石部
(白く写っている範囲が地下に埋まっていた)



下流側の巻石部
(手前に新たに発見された石積みが見える)



参考: 百間川の荒手の役割



基礎まで確認された巻石の旭川側の石積み